

**附属病院における救急看護**

救急看護って、どのようなことが行われているんだろう？  
救急部の認定看護師2名にインタビューしました。

救急患者さんが運ばれてきたら、どのように行動するの？

救急部・集中治療部・血液浄化療法部・手術部を兼務する看護師6名が、救急部で救急看護を行います。生命の危険にさらされている場合が多いので、時間が勝負です。早急に次のことを行います。

①情報収集：基礎疾患や通院・入院記録などの診療情報を集める。  
②準備：検査と治療が並行して行われるため、医師と連携し、患者さんの状態を把握し、予測して必要な医療器具などを準備する。  
③家族のケアと調整：家族に病状や容態等を説明する他、諸問題を調整する（社会的、経済的、言葉など）。

**寺村 文恵**  
救急部・集中治療部  
認定看護師\*（救急看護）



特に大切なことは？

救急患者さんの多くが運ばれるICU（集中治療室）は、容態の急変にすぐ対応できるように、24時間体制で管理された非日常的な空間です。患者さんの生命の存続が第一ですが、人間の尊厳を重視した「人としての生活のリズム」に合わせた看護も非常に大事。そのため、医療中心の看護ではなく、「その人らしさ」を大切にした看護をスタッフ全員で実践しています。

\* 認定看護師とは………  
(社)日本看護学会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいう。水準の高い看護実践を通して、看護師に対する指導・相談活動を行う（認定看護師登録者数：全国3,383名、三重県43名[うち附属病院勤務7名]）。

特に大切なことは？

救急患者さんの多くが運ばれるICU（集中治療室）は、容態の急変にすぐ対応できるように、24時間体制で管理された非日常的な空間です。患者さんの生命の存続が第一ですが、人間の尊厳を重視した「人としての生活のリズム」に合わせた看護も非常に大事。そのため、医療中心の看護ではなく、「その人らしさ」を大切にした看護をスタッフ全員で実践しています。

\* 認定看護師とは………  
(社)日本看護学会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいう。水準の高い看護実践を通して、看護師に対する指導・相談活動を行う（認定看護師登録者数：全国3,383名、三重県43名[うち附属病院勤務7名]）。

**水谷 しづよ**  
救急部・集中治療部・  
血液浄化療法部・看護師長  
認定看護師\*（集中ケア）




**ホットニュース／救急医療**

**急病・けがになつたら…**

かかりつけ医に相談  
診察が難しい時  
休日夜間応急診療所に連絡  
診察が難しい時  
「医療ネットみえ」で医療機関を探す

**医療ネットみえ**  
ホームページ <http://www.qq.pref.mie.jp/>  
自動案内  
TEL.0800-100-1199  
(いい救急)

**いざという時に慌てないために**

かかりつけ医を持つ！

日頃の診療だけでなく、急病などの緊急時にも、非常に心強い存在です。迅速な処置の他、重症の場合は適切な医療機関を探し、搬送先にそれまでの診療情報を提供するなどします。その診療情報は、緊急時にとっても役立ちます。

かかりつけ医と日頃からよい関係を築き、少しでも体調の異変を感じたら、早めに診てもらうことが大事です。

よりよい救急医療が行われるためには、救急医療体制の強化だけでなく、ボクたちの理解と行動が大事なんだね！

**えっくすくん からだカルテ**

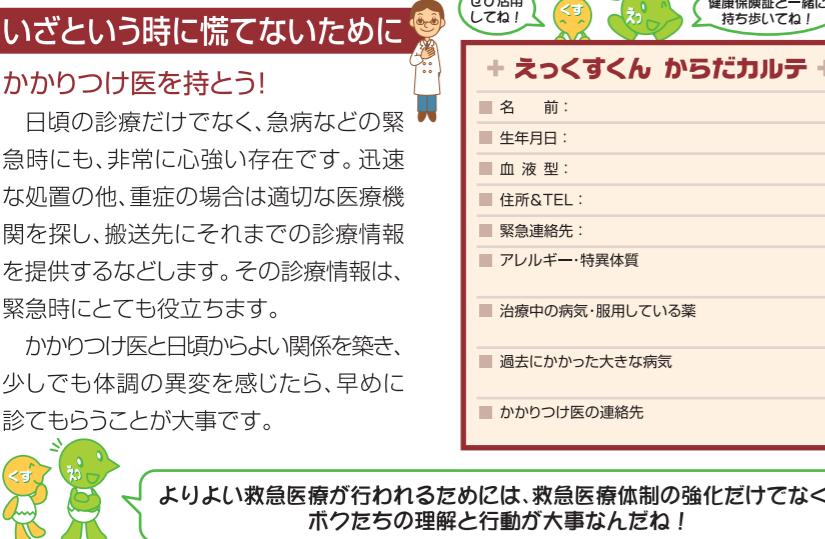
■名前：
■生年月日：
■血型：
■住所&TEL：
■緊急連絡先：
■アレルギー・特異体质
■治療中の病気・服用している薬
■過去にかかった大きな病気
■かかりつけ医の連絡先

せひ活用してね！

【お問い合わせ先】  
(医師・臨床研修医・看護師)  
三重大学病院事務部  
総務課人事係  
TEL.059-231-5046

タマサート大学における男女共同参画について

タマサート大学東アジア研究所・副所長  
カトレア・ペッシン Cattleya, Petchsingh




# 男女共同参画

平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」は、「性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる」社会の構築を目指した取組です。三重大学では、男女共同参画推進WGを立ち上げ、男女共同参画に積極的に取り組んでいます。



## 三重県における男女共同参画の推進について

三重県では、国の「男女共同参画社会基本法」(1999年)を受けて、2000年に「男女共同参画推進条例」を作り、8年間に及ぶ基本計画を立て、県民参加による審議会の厳しい評価のもとで様々な施策が実行されています。県民の理解もある程度進み、学校教育にも取り入れられるようになってきましたが、政策・方針決定過程や働く場への女性の参画、職場・家庭・地域社会への男女の共同参画など、基本的な課題がまだたくさん残されています。

三重大学国際交流センター・副センター長  
三重県男女共同参画審議会・会長  
**花見 横子** Hanami, Makiko

\* \* \* \* \* 9月28日に開催された「男女共同参画シンポジウム」にて \* \* \* \* \*



## タマサート大学における男女共同参画について

タイでは伝統的に男女の社会的格差が少なく、近代化以後も、大学生の割合は男女半々が普通でした。総合大学であるタマサート大学では、現在、女子学生総数が男子学生総数を上回っているくらいです。それでも工学部では、女子学生数が半数をやや下回っています。しかし、学部長は女性です。理工系の学部に多くの女子学生がいたり、少ないながらも女性教授がいたり、女性が学部長になることも珍しくありません。家庭手伝いを雇うことが比較的容易なので、女性が働きやすい環境にあると言えるでしょう。

問題が山積する21世紀を生き延びるために科学・技術は不可欠ですが、少子高齢化社会、若者の理科離れなどで研究者の不足が懸念されています。男子学生は実数の減少に連動して減り続けているですが、女子は実数の減少にもかかわらず進学の伸び率が勝って増加傾向です。文部科学省も理系専攻女子学生・研究者の育成に大きな助成金を投入しています。理系学部に女子学生を呼び込む絶好の機会を逃さず、教職員、学生の全般的な男女共同参画を実現したいものです。

三重大学人文学部・教授  
**小川 真里子** Ogawa, Mariko

